

## 株主メモ

---

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
期末配当の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル) 受付時間／ 9：00～17：00 (土日祝日を除く)
公告方法	電子公告により行う。
公告掲載 URL	<a href="http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/">http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/</a> ※ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

## SBIホールディングス株式会社

〒106-6019 東京都港区六本木一丁目6番1号  
TEL：03-6229-0100  
FAX：03-3224-1970  
E-mail：inquiry@sbigroup.co.jp

### 〈免責事項〉

この報告書に記載されている、SBIホールディングス(株)および連結子会社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実のないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは各資料発表時点においてSBIホールディングス(株)の経営方針により、入手可能な情報およびSBIホールディングス(株)が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものです。したがって、主要市場における経済情勢やサービスに対する需要動向、為替相場の変動など、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている見通しとは、異なる結果となり得ることをご承知おさください。



# 株主通信

SBIホールディングス株式会社

## 第13期中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日



ごあいさつ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 平素は当社事業にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当期における国内経済は、米国・中国両国をはじめ各国の景気刺激策の効果もあり、景気の自律的な回復に向けた動きが一部で見られたものの、円高の影響による国内景気の不透明感  
 は払拭されず、依然として厳しい状況にありました。株式市場においても、夏場には東証1部市場の  
 売買代金が1兆円を割り込む日がみられるなど、軟調に推移しました。

このように、依然厳しい事業環境は続いておりますが、当社グループの当上半期連結業績に  
 においては、主要セグメントの黒字化が定着してきており、前下半期（2009年10月～2010年3月）  
 比では、すべての主要セグメントにおいて増益もしくは黒字転換となるなど、回復基調にあります。

また、当期においては、SBIグループの収益力強化を目指し、美しく輝くダイヤモンドに<sup>ちな</sup>因み、「ブリ  
 リアントカット化」という新たな経営コンセプトを打ち出しました。1999年の創業から10年の間、  
 グループの規模拡大と企業生態系の構築を最優先として邁進してきた結果、当社は世界的にも  
 極めてユニークなインターネット総合金融グループとなることができました。今後は、当期からSBI  
 グループ成長の第2ステージと位置付け、国内外でグループ内シナジーのさらなる強化と収益力の  
 増強を図り、持続的な力強い成長に重点をおいた経営体制を敷いていくことといたします。  
 （詳細については、次ページ以降をご覧ください。）

今後とも、当社事業の発展と企業価値の向上へ向けて、全役員一同尽力してまいります所存で  
 ございます。株主の皆さまにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し  
 上げます。

2010年12月  
 代表取締役 執行役員 CEO

北尾 吉孝

01 | SBIグループの「ブリリアントカット化」を目指して

2010年7月、当社はグループの「ブリリアントカット化」という新しい経営コンセプト  
 を打ち出しました。これは、SBIグループの各社・事業体をダイヤモンドの面になぞらえ、  
 ダイヤモンドが最も美しく輝くとされる「58面体のブリリアントカット」をSBIグループの  
 企業生態系の58の会社・事業体に例えたものです。ダイヤモンドはブリリアントカット  
 をすることでそれぞれの面がより美しく、そして58面が一つとなった全体として最も輝く  
 ようになるわけです。

グループの「ブリリアントカット化」に向けて、当社は今後3カ年の基本戦略として、  
 従来のグループ規模の拡大優先から、収益力を重視した経営へと移行してまいります。

それと同様にSBIグループの主要な58事業体を選別し、黒字会社のさらなる利益の  
 拡大と赤字会社の3年以内の黒字化を目指し、全体として収益力の高い組織体を  
 確立してまいります。



今後3カ年の  
 主な基本戦略

黒字会社・事業部	相互シナジーの発揮により、さらなる利益拡大へ
赤字会社・事業部	グループリソースを有効活用し、グループシナジーをさらに追求することで、今後（新設会社は設立後）3年以内の黒字化を目指す ※黒字化目処の立たないものは原則として清算あるいは売却の方針 ・会社設立：現在設立準備中の会社以外に、新たな会社は設立しない ・買収：黒字企業かつSBIグループの企業生態系に含まれる企業群と強いシナジーが期待されるものに限る

ブリリアントカット

ダイヤモンドが最も美しく輝くとされる  
 研磨方法。  
 17世紀にベネチアでその原型が開発  
 された58面体のブリリアントカットは、  
 1919年にベルギーの数学者マルセル・  
 トルコフスキーによって、最も輝きを放つ  
 カットとして理論的に見出された。

企業生態系に適用

適切な規模で企業生態系を形成する  
 ことで、個々に輝きを放つ企業同士が  
 結びつき、シナジー効果が発揮され  
 相互進化がなされる。その結果、一つ  
 の企業生態系としての輝きを増す。

## 02 | 収益力の向上を目指した海外事業体制の構築

### 1 拡充を進める海外拠点網

当社では2010年9月に海外事業本部を新設し、その傘下に海外事業推進部と海外事業管理部を設置しました。新組織体制のもと、ファンドのパフォーマンスや現地におけるコンプライアンス・リスク管理体制の確立、駐在員事務所の早期現地法人化、および海外管理会計制度の導入・整備等を重点施策として行い、健全で収益力の高い海外組織体制の構築を目指してまいります。



### 2 海外有力パートナーとの提携によるファンドの組成

今夏以降においては、以下の海外パートナーと新たなVC（ベンチャーキャピタル）ファンドの設立について、基本合意しております。

#### ■ ブラジルファンド

##### ジャーディム・ボタニコ

(プライベート・エクイティ投資等を手がける資産運用会社)



ブラジルの有望な未公開企業を投資対象とする投資ファンドを共同設立することで基本合意

#### ■ アフリカファンド

##### Invest AD

(アブダビ首長国政府系ADIC(※)の子会社)



北・中央アフリカ6カ国（ナイジェリア、ガーナ、ケニア、エジプト、チュニジア、モロッコ）における有望な企業を投資対象とする投資ファンドを共同設立することで基本合意

(※)アブダビ投資評議会

#### ■ 復旦大学ファンド

##### 復旦大学（上海）



中国の有望な未公開企業を投資対象とする投資ファンドを共同設立することで基本合意

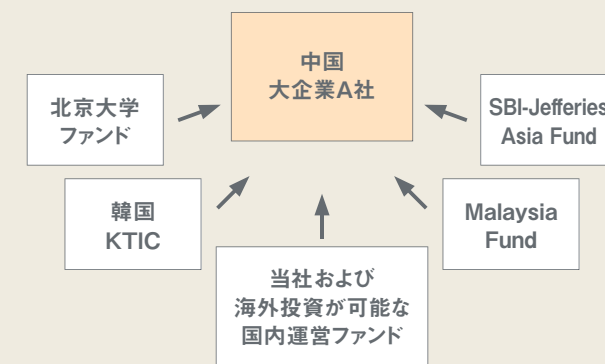
### 3 グローバルネットワークバリューの追求

当社はこれまで、世界の様々な地域において、有力パートナーとの提携によるプライベート・エクイティ投資を中心としたグローバルネットワークを構築してまいりました。今後はさらにそのネットワークの価値を高めるべく、既存事業との相互シナジーを働かせながら、グローバルネットワークバリューの追求を図ってまいります。

#### グローバルネットワークバリューの追求例

##### (1) ジョイントインベストメントによる投資規模の拡大

(例)



- 複数のファンドから出資を行うことで、総額として大規模な投資が可能に
- 1社に対する各ファンドの出資制限の範囲内で、グループ全体としてその制限を超えた比率の出資が可能に

↓  
大企業に対しても出資比率を高めて 経営への関与が可能となる

##### (2) 世界の有力機関からの投資によるIPOバリューの向上

世界的に有力とされる機関がパートナーとなる複数のファンドが出資者として名を連ねることで、投資先（未公開）企業のIPO時のバリューが向上し、より高いリターンが期待できる

##### (3) 各国金融サービス事業の相互シナジーの創出



##### SBIプノンベン証券

2010年10月 カンボジアにおける証券事業のフルライセンス認可取得  
▶ 株式引受やカンボジア株式の日本における販売（SBI証券）など、総合的な業務展開を目指す



##### オビ銀行

50%出資について基本合意済、現在ロシア金融当局の認可待ち  
▶ SBIグループのオンラインバンキング事業のノウハウ等を活用することで、より利便性の高いオンラインバンキングサービスの提供を目指す



##### 天安保険社

2010年7月 株式取得（出資比率：7.65%）  
▶ SBIグループが有するオンライン保険事業のノウハウを提供することで、同社のオンライン化を推進

## 決算のポイント

### POINT 1

事業環境は依然低迷し、急激な円高の進行も足元の収益に影響

### POINT 2

前下半期を底に業績は回復基調

### POINT 3

主要セグメントはいずれも営業黒字を確保。株式市場の影響が大きい部門が前年同期比減益となる一方、影響を受けにくい部門の成長が利益に貢献

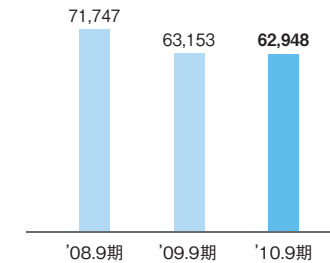
## セグメント別業績の推移 (百万円)

	売上高			営業利益 (▲は損失)		
	2010年3月期 第2四半期 連結累計期間	2011年3月期 第2四半期 連結累計期間	構成比 (%)	2010年3月期 第2四半期 連結累計期間	2011年3月期 第2四半期 連結累計期間	構成比 (%)
■ アセットマネジメント	12,117	10,516	15.9	2,471	2,679	37.8
■ ブローカレッジ&インベストメントバンキング	26,623	24,216	36.6	5,985	3,780	53.4
■ ファイナンシャル・サービス	11,962	14,508	22.0	304	435	6.2
■ 住宅不動産関連	6,325	8,591	13.0	▲181	1,205	17.0
その他	8,552	8,262	12.5	▲1,104	▲1,020	▲14.4
小計	65,580	66,096	100.0	7,475	7,079	100.0
連結消去及び全社費用	(2,427)	(3,147)	-	(3,723)	(3,474)	-
合計	63,153	62,948	-	3,752	3,605	-

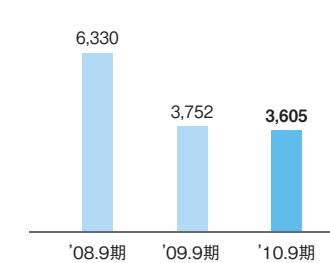
### セグメント区分の変更について

今期よりセグメント情報に関する新たな会計基準が適用されたことに伴い、システム関連事業、創薬事業および服飾関連事業等については報告セグメントとして開示せず「その他」に集計しております。

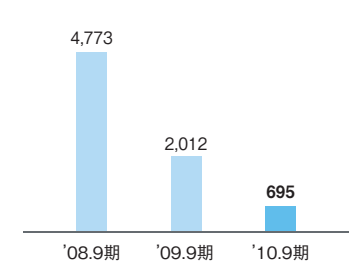
売上高 (百万円)



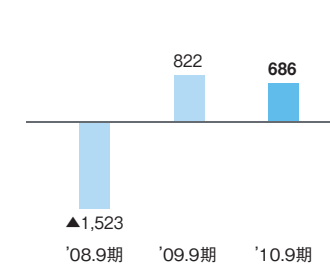
営業利益 (百万円)



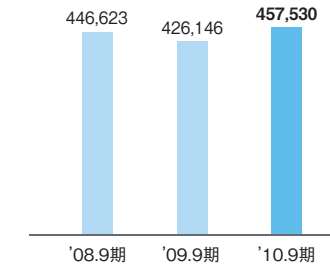
経常利益 (百万円)



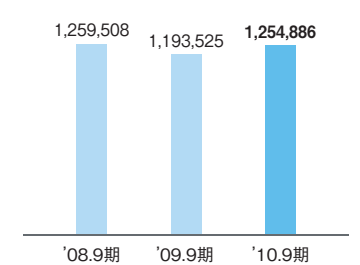
純利益(純損失) (百万円)



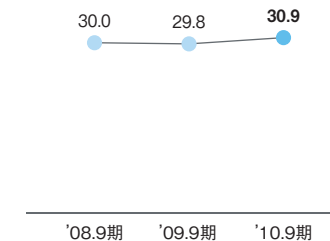
純資産 (百万円)



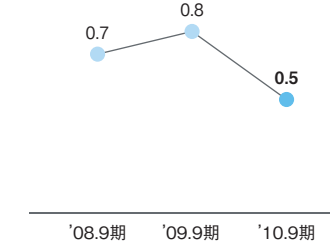
総資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



PBR (株価純資産倍率) (倍)



$$PBR = \frac{\text{各期末当社株式東証終値}}{\text{各期末1株当たり純資産}}$$

(2010年9月末当社株式東証終値:10,470円)

## アセットマネジメント事業

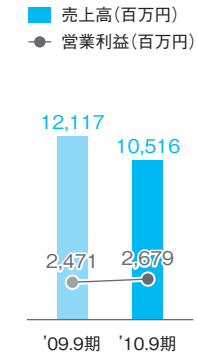
国内外のIT、バイオ、環境・エネルギーおよび金融関連のベンチャー企業等への投資に関する事業

### 決算のポイント

- 国内市場におけるIPO件数が昨年同期と同様に低水準で推移した中、当社グループの投資先からは3社が海外マーケットでIPOを果たし、1社がM&Aにてイグジットしました。当下半期については、海外でのIPOが増加する見込みです。
- 中国企業への投資を行い、収穫期にあるNew Horizon Fundからの営業利益貢献額が13億円となるなど、海外への積極的な投資が奏功し、当上半期においては前年同期比8.4%増となる26億円の営業黒字を確保しました。

アセットマネジメント事業におけるIPO・M&A実績

	IPO・M&A社数	投資先内訳				
		IPO		M&A		
		国内	海外	国内	海外	
2010年3月期	上半期	3	0	1	0	2
	下半期	8	4	0	1	3
2011年3月期	上半期	4	0	3	1	0
	下半期(見込み)	15	0	11	0	4



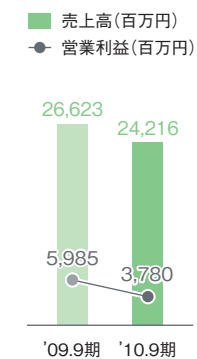
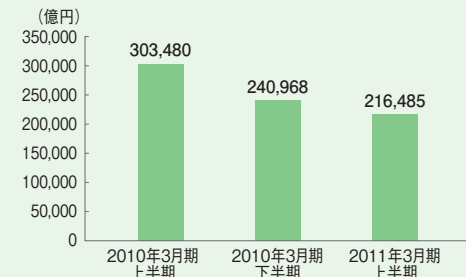
## ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

SBI証券を中心に「ネット」と「リアル」の融合を図りながら展開する総合証券業務等

### 決算のポイント

- 低調なマーケット環境が続く中、SBI証券の連結営業利益は前年同期比では減少しましたが、投資信託の販売好調により投資信託関連収益が増加したことや、外国債券の販売増加による債券等トレーディング収益の増加などにより、前下半期比では8.8%増加しました。
- 8月よりFX取引に係るレバレッジ規制が導入されたものの、スプレッドの縮小や逆手数料料キャンペーン等が奏功し、SBI証券におけるFX売買代金は引き続き高水準を維持しました。

SBI証券における株式委託売買代金の推移



## ファイナンシャル・サービス事業

金融分野における幅広い商品・サービスを、インターネットを通じて提供する事業

### 決算のポイント

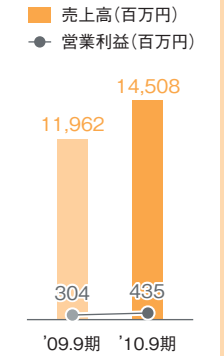
- 上場子会社3社(モーニングスター、ゴメス・コンサルティング、SBIペリトランス)の業績は前期に底を打ち、当上半期においてはいずれも前年同期比で増収増益を達成したものの、SBIカードにおいて貸倒引当金繰入6億円を計上したことなどにより、当上半期の営業利益は4億円となりました。
- 住信SBIネット銀行は急速に顧客基盤を拡大しており、当上半期の最終利益は、前年同期比14.4%増の14億円となりました。

上場子会社の業績

(単位:百万円、( )内は前年同期比増減率:%)

※1	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
モーニングスター	1,179 (+2.2)	254 (+38.6)	308 (+29.4)	171 (+26.5)
ゴメス・コンサルティング	210 (+11.6)	16 (-)※2	27 (+163.3)	18 (+105.5)
SBIペリトランス	2,888 (+18.1)	570 (+11.9)	574 (+12.0)	341 (+17.4)

※1 モーニングスター、SBIペリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載  
 ※2 前年同期の営業損益は0



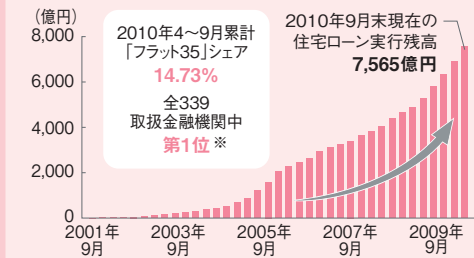
## 住宅不動産関連事業

住宅ローンの貸出・取次ぎ、不動産物件への投資・不動産開発、および各種生活関連EC・仲介サイトの運営業務等

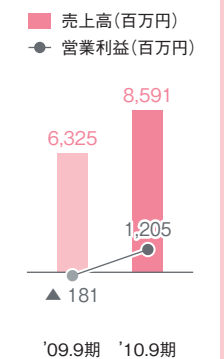
### 決算のポイント

- 長期固定金利住宅ローン商品「フラット35」を業界最低水準金利で提供するSBIモーゲージが、金利優遇策を追い風に業績を大幅に伸長させたことや不動産市況の回復により、当事業全体における営業利益は12億円となりました。
- SBIライフリビングでは、引き続きインターネットメディア事業(消費者向けEC・仲介サイトの運営)が収益を牽引し、当上半期は営業黒字を確保しております。

SBIモーゲージにおける住宅ローン実行残高の推移



※ SBIモーゲージ調べ。シェアは融資実行金額による。保証型含む



## インサイド SBI

SBIグループ企業の中で、成長著しい4社をクローズアップし、主な取り組みなどについて各社員よりご紹介いたします。

「サーチナ」は国内最大の中国情報ポータルを基盤としたサイトです。中国の社会、政治、時事ニュースに加えて、中国株や日本株、新興国株、為替などの金融情報を配信しており、中国経済を中心とした金融情報ポータルとしての特徴も備えています。月間ユニークユーザーは約500万人、月間PVは約9,000万PV規模を誇り、国内有数のニュースメディアとして成長を続けています。



<http://searchina.ne.jp/>

サーチナ

私のチームは、ユニークユーザーやPVの増加を目的に、ニュース配信管理や特集企画の制作、コンテンツアライアンスの推進を担当しています。また、収益の柱の一つであるネットワーク広告のシステムコントロールなども行っています。

「サーチナ」は現時点でも、日中の架け橋として国内最大級規模の中国情報サイトであると自負していますが、引き続き情報の鮮度、正確さにより一層の磨きをかけ、ビジネスマン、一般ユーザーの皆さまに広く愛されるサイトを目指してまいります。



(株)サーチナ



松村 吏司

メディア事業部 コンテンツ企画チーム  
コンテンツ企画部長

SBIアラプロモは、ALA (5-アミノレブリン酸) を用いた製品の開発、製造、販売を行うSBIグループとコスモ石油(株)のジョイントベンチャーで、化粧品、健康食品および医薬品の分野においてALAを利用した製品を提供すべく事業を展開しています。



※ALAとは、植物から動物まで全ての生物の生体内に含まれる天然のアミノ酸で、血液中のヘモグロビンや葉緑素(クロロフィル)の原料となる生物にとって非常に重要なアミノ酸です。

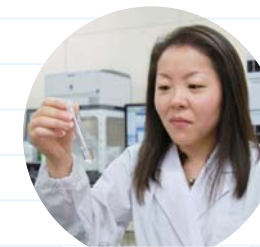
<http://www.sbi-alapromo.co.jp/>

SBIアラプロモ

その中で私は、「ALA+ミネラル」を配合した健康食品の開発、製造を担当しており、お客さまのアクティブな毎日をサポートする商品作りを目指して研究を行っております。2010年5月に本格販売を開始したナチュラル・ビオは、ほとんど販促活動をしていないにもかかわらず、約4ヶ月間で、すでに延べ10,000人を超えるお客さまにご愛飲いただき、ご購入いただいた方々からはたくさんの喜びの声が届いております。これらを励みに、「ALA+ミネラル」を配合した商品で、日本のみならず、世界中の人々の生活がより豊かになるよう、最大限の努力と挑戦を続けてまいります。



SBI アラプロモ(株)



土屋 京子

研究開発部 マネジャー



SBI ライフリビング(株)



荒田 真木子

生活サービス事業部  
アシスタントマネジャー

SBIライフリビングのインターネットメディア事業本部では、生活シーンに関連した様々なサービスサイトを運営しております。その中で私は、インターネット上のフリーマーケット「ムスビー」において、お客さまに安心してサイトを利用していただくために必要なサービスの企画立案を担当しています。この業務の担当となり6年が経ちますが、例えば「ムスビー」は中古携帯電話の仲介実績が国内トップクラスの取扱高を誇るサイトに成長するなど、自分の役割が大きくなる中、その責任の重さに充実感も感じております。

また、個人的には出産を経て今春に職場復帰しましたが、当社は代表取締役を筆頭に女性が多く、復帰後の職場におけるフォロー体制も充実しており、女性が仕事に全力投球できる職場環境が整っております。

10月からは新サイト「くらべる葬儀」の運営を開始するなど、今後もお客さまの“生活”のワンシーンに役立つサイト・サービスの充実を図ってまいります。



<http://www.musbi.net/>

ムスビー



オートックワン(株)



岸野 靖之

WEB開発部

オートックワンは、国内最大級のインターネット新車見積もりサービスを軸に、自動車評論家による試乗レポートや、ユーザーによるクチコミレビューなどを提供する、総合自動車メディアサイトを運営しています。また、クラウドなどITを活用した、自動車販売店向けの営業支援サービスや、車種ごとの部品適合判定システムを使ったタイヤ・ホイール販売も行っております。

その中で私は、新車見積もりサービスの使い勝手を向上させ、お客さまにご満足いただけるクルマ選びのサポートが出来るよう、より見やすく使いやすいサイトへの改善を日々行っております。

現在は、新車購入時に悩まれる方が多い「グレード選び」を、わかりやすくサポートする仕組みの開発を行っております。

今後も、お客さまに最も愛される総合自動車メディアサイトを目指し、常にお客さま目線で、新しいサービスや価値の提供にチャレンジし続けます。



<http://autoc-one.jp/>

オートックワン

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表(要約) (百万円)

科目	前連結 会計年度末 2010.3.31	当第2四半期 連結会計期間末 2010.9.30	科目	前連結 会計年度末 2010.3.31	当第2四半期 連結会計期間末 2010.9.30
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	980,323	<b>992,309</b>	流動負債	747,090	<b>737,345</b>
現金及び預金	143,726	<b>134,933</b>	短期借入金	55,614	<b>56,057</b>
営業投資有価証券	113,152	<b>120,023</b>	1年内償還予定の社債	112,600	<b>111,500</b>
預託金	318,865	<b>308,665</b>	信用取引負債	150,036	<b>125,131</b>
信用取引資産	261,641	<b>267,264</b>	受入保証金	282,373	<b>277,825</b>
その他	142,937	<b>161,422</b>	その他	146,465	<b>166,830</b>
固定資産	246,395	<b>257,872</b>	固定負債	47,014	<b>54,813</b>
有形固定資産	20,613	<b>17,909</b>	特別法上の準備金	7,219	<b>5,196</b>
無形固定資産	145,286	<b>143,430</b>	負債合計	801,324	<b>797,355</b>
投資その他の資産 ● <b>POINT 1</b>	80,494	<b>96,532</b>	<b>純資産の部</b>		
繰延資産	3,220	<b>4,705</b>	株主資本 ● <b>POINT 2</b>	361,282	<b>396,131</b>
			評価・換算差額等	▲ 2,051	<b>▲ 8,293</b>
			新株予約権	11	<b>11</b>
			少数株主持分	69,372	<b>69,680</b>
			純資産合計	428,615	<b>457,530</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,229,939</b>	<b>1,254,886</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,229,939</b>	<b>1,254,886</b>

### POINT 1

成長を続ける住信SBIネット銀行の増資引受や、海外金融機関への出資による持分法適用関連会社化等により、投資その他の資産は前期比19.9%増加しました。

### POINT 2

今後の成長に不可欠な、海外新興国で運営するファンドへの自己投資資金の確保等を目的に、新株式の発行により2010年6月23日を払込期日として、353億円の資金調達を行いました。

## 連結損益計算書(要約) (百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2009.4.1~2009.9.30	当第2四半期 連結累計期間 2010.4.1~2010.9.30
売上高 ● <b>POINT 3</b>	63,153	<b>62,948</b>
売上原価	28,274	<b>28,646</b>
売上総利益	34,879	<b>34,301</b>
販売費及び一般管理費	31,126	<b>30,696</b>
営業利益	3,752	<b>3,605</b>
営業外収益	524	<b>754</b>
営業外費用 ● <b>POINT 4</b>	2,264	<b>3,663</b>
経常利益	2,012	<b>695</b>
特別利益	1,174	<b>2,426</b>
特別損失	2,113	<b>3,007</b>
税金等調整前四半期純利益	1,074	<b>113</b>
法人税等	1,338	<b>1,391</b>
少数株主損益調整前四半期純損失(▲)	-	<b>▲ 1,277</b>
少数株主損失(▲)	▲ 1,086	<b>▲ 1,963</b>
四半期純利益	822	<b>686</b>

### POINT 3

低迷する株式市況の影響を受け、SBI証券の営業収益(売上高に相当)は前年同期に比べ24億円減少しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2009.4.1~2009.9.30	当第2四半期 連結累計期間 2010.4.1~2010.9.30
営業活動による キャッシュ・フロー	▲ 52,149	<b>▲ 30,034</b>
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 12,816	<b>▲ 9,793</b>
財務活動による キャッシュ・フロー	55,205	<b>32,959</b>
現金及び現金同等物に 係る換算差額	▲ 1,153	<b>▲ 1,978</b>
現金及び現金同等物の 増減額(▲は減少)	▲ 10,914	<b>▲ 8,847</b>
新規連結等に伴う現金 及び現金同等物の増減額(▲は減少)	78	<b>▲ 28</b>
現金及び現金同等物の 期首残高	126,312	<b>142,581</b>
現金及び現金同等物の 四半期末残高	115,477	<b>133,705</b>

### POINT 4

SBI Korea Holdingsにおいて、円建て借入金の為替差損6.7億円を計上するなど、急激な円高の進行により収益に影響を受けました。一方で、円高により海外への投資コストは低減しております。

会社概要 (2010年9月30日現在)

社名	SBIホールディングス株式会社
英文表記	SBI Holdings, Inc.
本社	東京都港区六本木一丁目6番1号
事業内容	株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
設立	1999年7月8日
資本金	73,226百万円
従業員数	連結3,331名 単体251名

役員 (2010年9月30日現在)

代表取締役 執行役員 CEO	北尾 吉孝
取締役 執行役員 CFO	澤田 安太郎
取締役 執行役員	平井 研司
取締役 執行役員	中川 隆
取締役 執行役員	朝倉 智也
取締役 執行役員	沖田 貴史
取締役 執行役員	円山 法昭
取締役 執行役員	森田 俊平
取締役	井土 太良
取締役	城戸 博雅
取締役	木村 紀義
取締役	田坂 広志
取締役	吉田 正樹
取締役	永野 紀吉
取締役	渡邊 啓司
取締役	夏野 剛
取締役	玉木 昭宏
常勤監査役	渡辺 進
監査役	島本 龍次郎
監査役	藤井 厚司
監査役	多田 稔

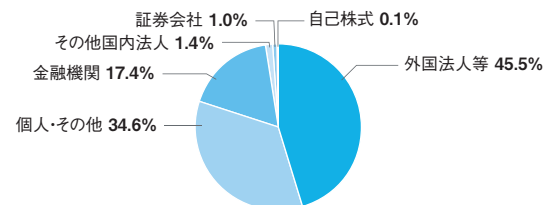
株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,169,000株
発行済株式総数	19,940,492株
株主数	198,597名

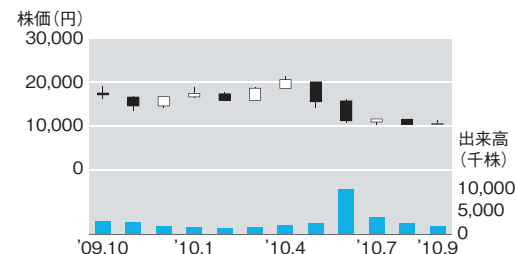
■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
シービーニューヨーク オービス ファンズ	1,715,239	8.6
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	1,351,967	6.8
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	954,575	4.8
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	770,462	3.9
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	614,107	3.1
サジヤツブ	376,628	1.9
北尾 吉孝	323,626	1.6
オーエム04 エスエスピークライアント オムニバス	300,699	1.5
ステート ストリート バンク ウェスト ペンション ファンド クライアント エグゼンプト	243,506	1.2
UBS AG LONDON A/C IPB SE GREGATED CLIENT ACCOUNT	240,797	1.2

■ 所有者別株式分布状況



■ 株価/出来高の推移



株主優待制度に関するご案内

株主優待クーポンコードをご利用いただければ、1ヶ月無料でWSJ 日本版をご購読いただけます。

優待内容

2010年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主および登録株式質権者の皆さまを対象に、「ウォール・ストリート・ジャーナル (WSJ) 日本版」(当社と米国ダウ・ジョーンズ社とのジョイントベンチャーであるウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパンが手がける、オンライン・ニュースサイト)の1ヶ月購読権(市価1,980円)を、一律に贈呈いたします。  
\*すでにWSJ 日本版の有料会員の方もご利用いただけます。

申し込み方法・ご利用登録期間

株主優待専用ページ (<http://jp.wsj.com/sp/yutai/>) にアクセスの上、株主優待クーポンコードを入力してください。  
なお、株主優待クーポンコードのご利用登録期間は、**2011年5月31日まで**です。

株主優待クーポンコード

『株主総会招集通知』(2010年6月に発送済み)に同封されている『株主優待のご案内』の表紙下に記載の12ケタのコードをご利用いただくか、下記専用コールセンターまでお問い合わせください。

ウォール・ストリート・ジャーナル日本版とは、世界中のビジネスリーダーに愛読されているウォール・ストリート・ジャーナル (WSJ) のオンライン・ニュースサイトです。WSJ米国版に毎日掲載される記事の中から、日本の読者の関心が高い、世界の金融市場の動向、ビジネストレンドなどを選別し、日本語に翻訳して掲載しています。  
WSJだからこそ提供できる「ためになるニュース」「使えるニュース」を「読みやすい日本語」に翻訳して配信していますので、ぜひご覧ください。

<http://japan.WSJ.com/>



Copyright © 2010 Dow Jones & Company, Inc. All Right Reserved

注意事項

- 「1ヶ月無料期間」は、無料会員さまの場合、株主優待クーポンコード利用登録の日から、利用後最初に到来する1日または15日の1ヶ月後までとなります。(例：1月13日にご利用登録の場合は同日から2月14日まで、1月16日にご利用登録の場合は同日から2月28日まで) 有料会員さまの場合は、お客さまの有料会員購読期間が1ヶ月延長されます。
- 株主優待クーポンコードは1回に限り、ご利用可能です。
- 株主優待クーポンコードを第三者に譲渡・貸与・質入することはできません。
- 他のクーポンとの併用は原則不可となります。ご了承ください。

WSJ日本版は Twitterをつけています!

最新の更新情報や、編集長おすすめの記事を紹介しています。



<http://twitter.com/WSJJapan>

お問い合わせ先

SBIホールディングス株主優待専用コールセンター

TEL.03-6864-1664

[受付] 月～金曜日9:00～18:00 (土日祝日と12月31日～1月3日を除く)

株主優待専用ページ <http://jp.wsj.com/sp/yutai/>